

献血推進および血漿分画製剤の認知度向上に向けた 国内血漿分画事業者の取り組み (血漿分画製剤の安定供給の推進のための 業務提携の在り方検討会)

概要報告

2021年10月29日

日本製薬株式会社
KMバイオロジクス株式会社
一般社団法人日本血液製剤機構
日本赤十字社

背景

- ◆ 2016年10月に厚生労働省から発出された「ワクチン・血液製剤タスクフォース 顧問からの提言」を受け、国内分画事業者3社は血漿分画事業が抱える課題を抽出し、これらのうち3社の連携により改善が期待できる課題について検討することを目的として、2017年8月に血漿分画製剤の安定供給の推進のための業務提携の在り方検討会（以下、3社検討会）を設立した。
- ◆ 3社検討会では、「安定供給」、「国内自給」、「国内企業の経営基盤の強化」、「献血血液の有効利用」の4つの基本的コンセプトに基づき検討すべき項目を取りまとめ、日本の血漿分画事業のあるべき姿を描きながら3社によるその実現を目指している。
- ◆ 近年、免疫グロブリン製剤の需要が増加していることから、原料血漿必要量予測及びその確保策等について日本赤十字社を交えた意見交換を行っており、日本赤十字社から、「広く国民に対して血漿分画製剤の認知度向上活動を行うことの必要性」について意見をいただいた。そこで国内分画事業者と日赤職員をメンバーとして、3社検討会に紐付く「献血推進および血漿分画製剤の認知度向上に向けた広報分科会」を設置し、広報資料の作成等を行うこととした。

本分会の活動報告

1. 献血推進および血漿分画製剤の認知度向上に向けた動画作成
2. 国内分画事業者の献血推進に関する取り組み
 - ✓ 献血サポーターへの登録
 - ✓ 従業員に対する献血への理解促進
 - ✓ 各社独自の献血推進策
3. 今後の取り組み
 - ✓ 職員相互研修
 - ✓ 献血推進動画の更なる活用

1. 献血推進および血漿分画製剤の認知度向上に向けた動画作成

<献血推進動画>

～献血の先にある、感動を知っていますか？～

<内容>

- ◆ 献血いただいた血液からは輸血用の血液製剤だけではなく、血液成分中の有用タンパクを分離、抽出した血漿分画製剤という薬がつくられること、その薬で助けられている命があること、血漿分画製剤を必要とする患者や疾患が増えており、より多くの献血が必要であることを知っていただく内容。
- ◆ 血漿分画製剤の投与を受けた川崎病並びに原発性免疫不全症患者のご家族からのインタビューを含め、約12分間の動画。



1. 献血推進および血漿分画製剤の認知度向上に向けた動画作成

全血献血
血液のすべての成分を採る
できる場所: 献血ルーム、献血バスなど

成分献血
血漿や血小板成分を採って
赤血球は体内に戻す
できる場所: 献血ルーム

献血には血液のすべての成分を採る『全血献血』と
血漿や血小板成分を採って赤血球は体内に戻す『成分献血』があります。

成分献血
1回分

約1本分の
免疫グロブリン2.5g製剤

現在、血漿分画製剤を使用する患者さんや疾患が増えているため
より多くの成分献血が求められています。



<主な活用方法>

- ◆ 献血ルームにおいて放映中。
- ◆ 国内分画事業者のHPへ掲載。
- ◆ 患者団体や学会HPなどでも活用いただきたいと考えている。

<動画アクセス先>

日本製薬: <https://www.nihon-pharm.co.jp/consumer/kenketsu.html>

KMバイオロジクス: <https://www.kmbiologics.com/sustainability/contribution/>

日本血液製剤機構: <https://www.jbpo.or.jp/blood/mov01.html>

2. 国内分画事業者3社の献血推進に関する取り組み

<献血サポーターへの登録>

- ◆献血サポーターへの登録を行うと共に、各社の名刺へ当該サポーターの公式ロゴを記載することで、献血推進活動への協力をステークホルダーへ提案している。

<従業員に対する献血への理解促進>

- ◆社内イントラ及び社内報を活用し、更なる献血推進を啓発。

<各社独自の献血推進策>

- ◆各社事業所へ献血バスの受け入れ等、各社の既存の取り組みを3社で実行。
- ◆就業時間内に献血が行えるように規則等環境を整備。
- ◆社内のみならず、グループ企業従業員に対しても広報動画を活用し、献血を啓発。

3. 今後の取り組み

<職員相互研修>

- ◆国内分画事業者3社と日本赤十字社間で互いの事業理解を促進することを目的とし、研修を実施（一部実施済）。

<献血推進動画の更なる活用>

- ◆成分献血へのご協力並びにリピーターとなって頂けるよう、ノベルティ等にQRコードを記載し、献血推進動画へアクセスできるような仕組みを検討している。